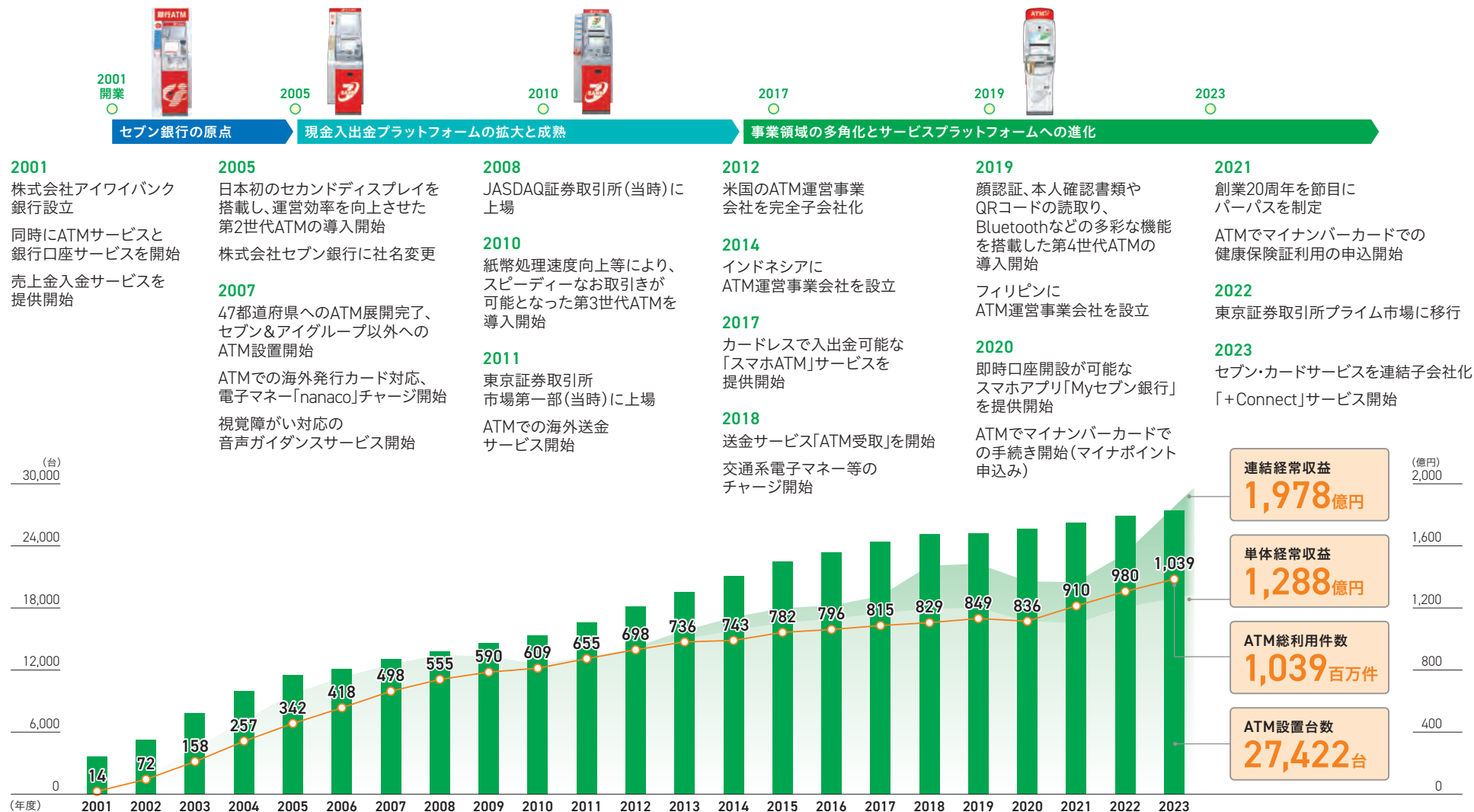


進化の歴史

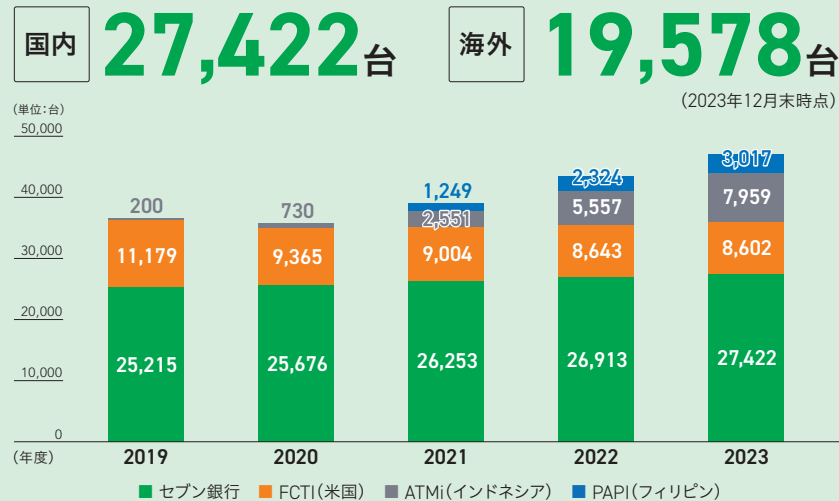
「セブン-イレブンにATMがあったら……」。そんなお客さまの想いにお応えして2001年に誕生したセブン銀行は、「いつでも、どこでも、だれでも、安心して」ご利用いただけるATMサービスの提供を通じ、安全かつ効率的な決済インフラの構築に努めてきました。現在では、全都道府県に27,000台以上のATMを設置し、1日284万人のお客さまにご利用いただく、まさに社会インフラの一つへと成長しました。



セブン銀行グループの「今」

特段の記載のない項目においては、2023年度もしくは2024年3月末現在の状況を記載しています。

ATM設置台数



ATM総利用件数(国内)

10 億 3,900 万件

ATM平均利用件数(国内)

105.0 件/台/日

ATM提携先数

676 先

ATM稼働率

99.98 %

ATMをご利用されるお客さまの数

約 **284** 万人 / 日

個人預金口座

303 万口座

セブン・カードサービス クレジット会員数

約 **350** 万人

セブン・カードサービス nanaco 会員数

約 **8,200** 万人

セブン銀行グループ 2023注目トピックス

グローバルでATM台数は47,000台、
ATM総利用件数は14億件超

キャッシュレスが進む中、グローバルでのATM台数および利用件数は順調に拡大しています。次のステージに向けて、新たな取組みにも挑戦していきます。



ATM+の世界の実現に向けた
「+Connect」

「ATMが、あらゆる手続き・認証の窓口となる」世界を目指し、銀行やノンバンク、事業会社、行政等幅広い業界に対して、利便性の高い多様なサービスを提供します。

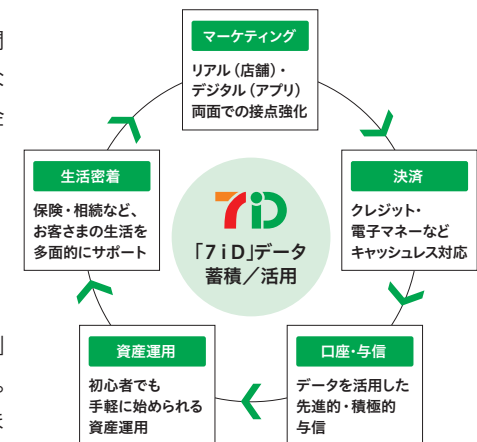


セブン・カードサービスを統合し、
「小売×金融」の新しい形を実現

両社がこれまで培ってきたノウハウ・専門性等を統合、拡充させつつ、お客さまの多様なニーズに対して、流通小売グループらしい金融サービスを提供します。

「7iD」連携による
グループシナジーの発揮

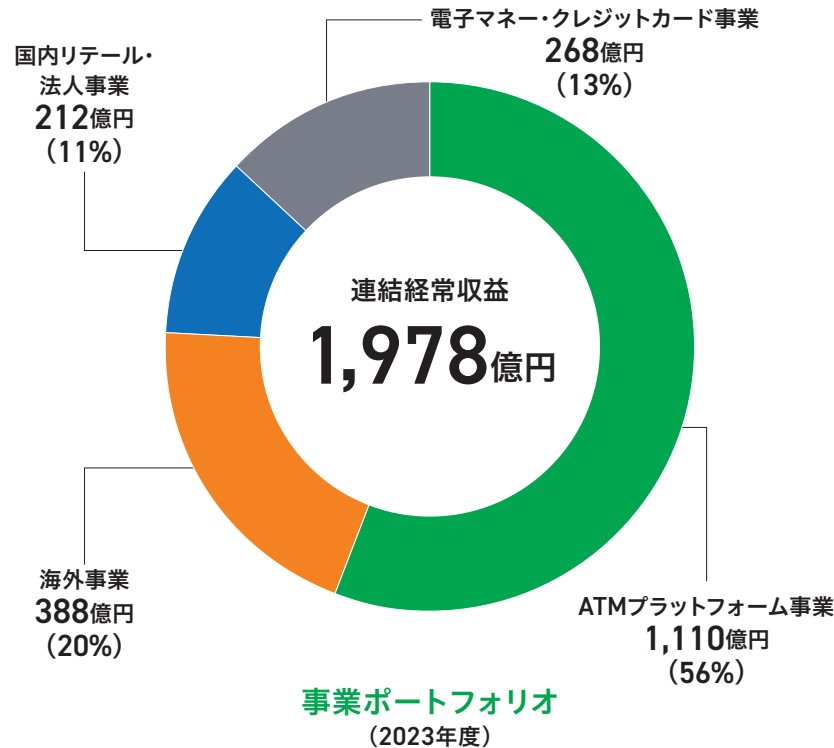
セブン&アイグループ共通の会員ID「7iD」にセブン銀行口座を登録するサービスを開始。グループシナジーを発揮することで、お客さまの購買&金融体験を向上させ、利便性の高いユニークな金融サービスの提供を目指します。



セブン銀行グループの全体像



セブン銀行グループの収益構造



● 国内事業

リテール戦略／クレジットカード・電子マネー事業

[詳細 P37](#)
[詳細 P39](#)

収益	キードライバー	事業環境（機会とリスク）
- 加盟店手数料 - リボ・キャッシング手数料 - 貸出金利息	- 口座／会員数 - クレジットカード／電子マネー決済額 - リボ・キャッシング残高 - ローン残高	- 多様な決済手段が浸透し、特にクレジットカード取引量は増加傾向。 - 消費活動の活発化によりローンや後払いを含めて金融サービスへのニーズは高く、今後も拡大が見込める。 - 異業種による金融事業の新規参入が続出。「小売×金融」ならではの付加価値の高い金融サービスの提供が求められる。

● 国内事業 ATMプラットフォーム戦略

[詳細 P35](#)

収益	キードライバー	事業環境（機会とリスク）
ATM受入手数料	- ATM設置台数 - 利用件数 - 手数料単価	- コード決済や電子マネーへの現金チャージが増加し、利用件数は増加傾向。 - 日本におけるATM総設置台数が減少傾向にある中、当社は積極的にATMの設置を推進しシェアは拡大。 - 少子化による労働力の減少はあらゆる産業の業務効率化を促進。「+Connect」のポテンシャルは高く、社会インフラとしてのATMの重要性も高まる。

● 国内事業 法人戦略

[詳細 P41](#)

収益	キードライバー	事業環境（機会とリスク）
各サービス手数料	- 商品・サービス内容 - 契約件数	- 金融機関に対する法令規制やセキュリティ対策はその負荷が大きく、バックオフィス業務の事務委託のニーズは高い。 - 金融犯罪対策は喫緊の課題。豊富な知見やノウハウが要求される分野であり、市場ポテンシャルは高い。 - 事業会社や行政から個人への送金・決済サービスでは全国のATMネットワーク網が当社の強みとなる。

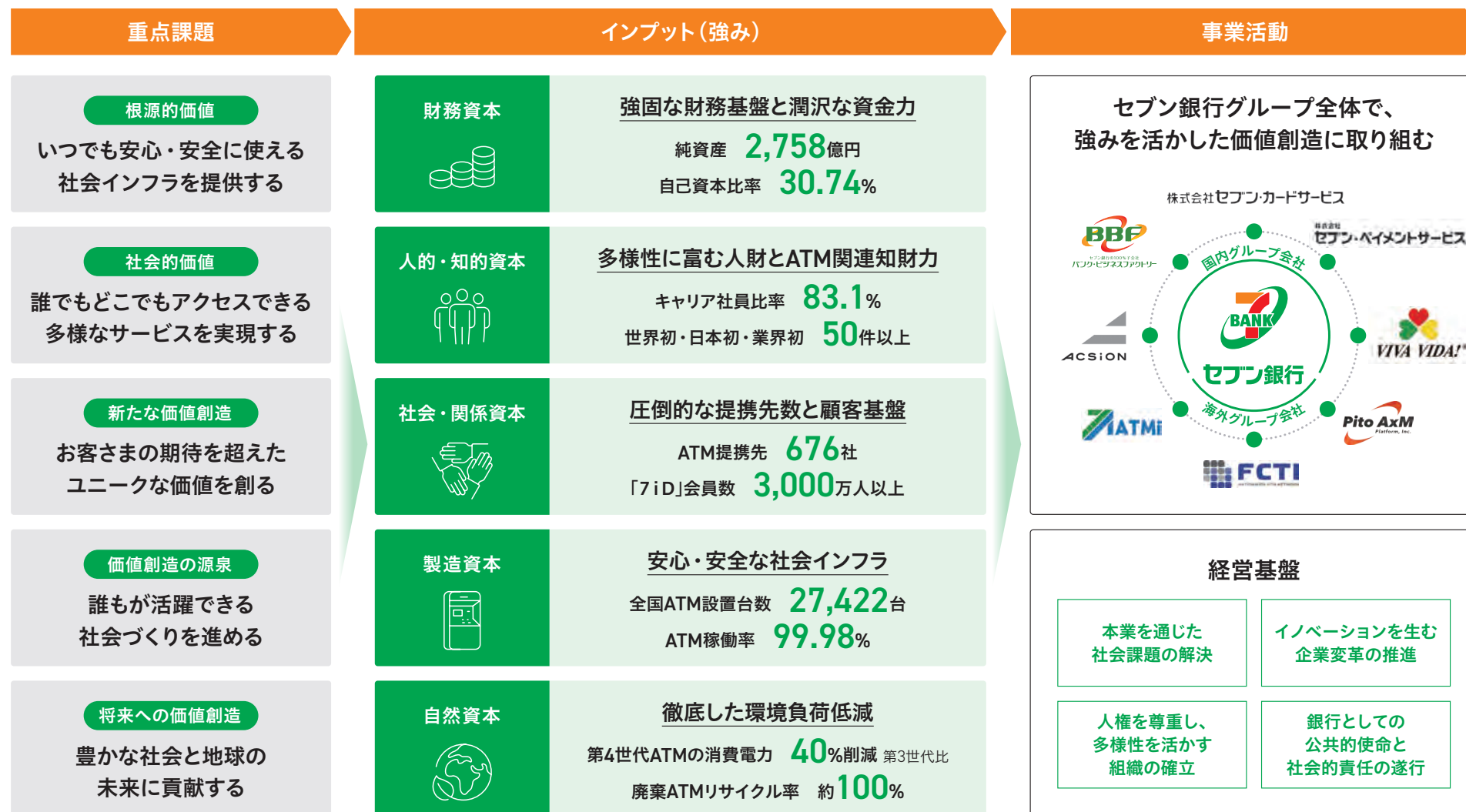
● 海外事業

[詳細 P43](#)

収益	キードライバー	事業環境（機会とリスク）
ATM受入手数料	- ATM設置台数 - 利用件数 - 手数料単価 - 現地パートナー企業	- 政策金利の上昇は資金調達コストを引き上げるため、各国での資金管理は今後も重要な課題。 - アジアは現金ニーズも高く、ATM台数が不足していることから、台数増加の傾向は続く。 - 現地のセブン-イレブンやパートナー企業との関係性がより重要性を増す。双方がWIN-WINになるよう金融サービスの開発が必要。

価値創造プロセス

私たちの価値創造はパーパスの実現に紐づいています。パーパスを実現するために、セブン銀行グループがステークホルダーの皆さまとともに創る5つの価値、「根源的価値」、「社会的価値」、「新たな価値創造」、「価値創造の源泉」、「将来への価値創造」を当社の重点課題として、整理しました。これからは、パーパスの実現と重点課題の推進に注力することで企業価値の創造を目指します。



パーパス お客様の「あったらいいな」を超えて、日常の未来を生みだし続ける。

アウトプット(事業成果)

ATMプラットフォーム事業

全国27,000台以上のATMを通じた多様なサービスの提供

- ATM総利用件数 **10.3億件**
- 「+Connect」サービスローンチ

国内リテール事業

日々の暮らしを支えるユニークな金融サービスの提供

- 口座数 **303万口座**
- クレジットカード会員数 **約350万人**
- 電子マネー会員数 **約8,200万人**

国内法人事業

銀行品質の信頼性と利便性の高い法人サービスの提供

- 提携先企業増加率 **124%**

海外事業

海外でのATMサービスの拡大・拡充

- 海外ATM台数 **19,578台**
- 海外ATM総利用件数 **4.3億件**

アウトカム(資本への影響)

財務資本



強固な財務基盤をベースに、資本効率の向上を目指しながら次の成長に向け経営を推進

人的・知的資本



多様な人材が活躍できる環境整備とイノベーションを創出する組織文化で成長を加速

社会・関係資本



ATM提携先の拡大とグループ全体で1日2,200万人のリアル接点を活かしたサービスを拡大

製造資本



高い専門性を持つ事業パートナーと連携した「止まらないATM」を実現

自然資本



事業パートナーと連携した環境負荷低減の取組みにより、地球で最も優しいATMネットワークを構築

持続的成長に向けて

成長戦略の加速

「ATM+」の世界の実現

あらゆる事業・サービスのDX化を支援し、生活者の利便性を高める

事業の多角化の加速

あらゆる人々の生活に必要な金融サービスを安心・簡単・シームレスに提供する

サステナビリティ経営の確立

あらゆる事業活動を通じ、社会課題の解決と企業価値向上を達成する

重点課題の推進



Connectivity



Accessibility



Innovation



Collaboration



Responsibility

社会的インパクト



多様な選択肢のある社会



暮らしやすい日常



誰一人取り残されない世界



持続可能な地球環境



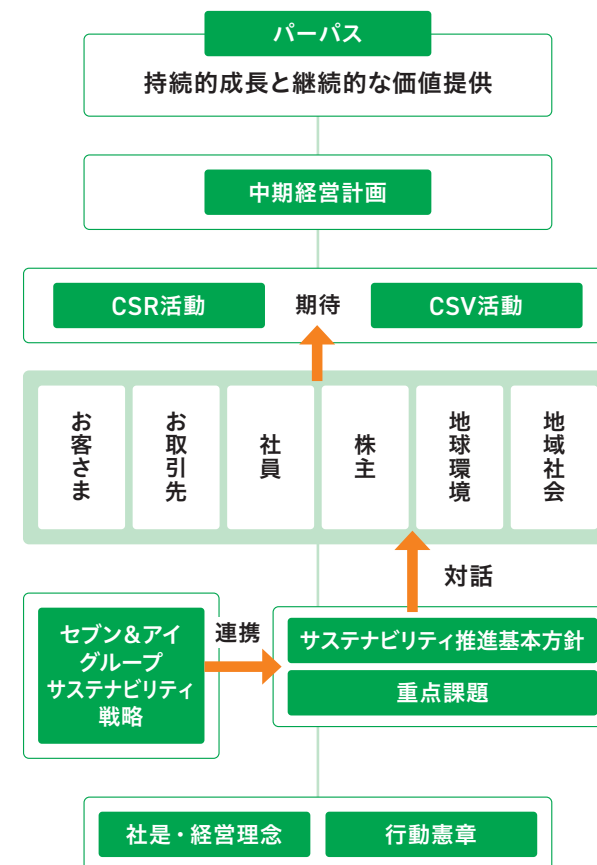
持続的成長の実現に向けて

セブン銀行グループは創業以来、事業活動を通して社会課題・環境問題の課題解決に取り組んできました。2007年には「CSR基本方針」を策定してサステナビリティ推進への本格的な取り組みを開始し、多様なステークホルダーとともに持続的な成長を目指してきました。現在はサステナビリティを長期的な成長の根幹と位置づけ、重点課題やSDGsの達成に向けた取り組みをさらに強化しており、このたび新たな5つの重点課題（マテリアリティ）を策定しました。

これまでのサステナビリティのあゆみ



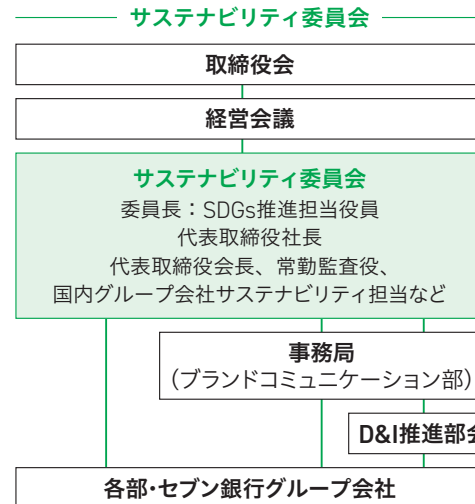
サステナビリティの全体像



セブン銀行グループの サステナビリティ推進の方向性

サステナビリティに関する方針の策定や重要な案件については、「サステナビリティ委員会」にて適切性や妥当性を審議し、経営会議および取締役会に付議・報告を行い、執行役員がサステナビリティ推進に責任を持ち、取締役が監督する体制を整えています。

また、セブン&アイグループの一員として、各グループ会社とも連携し、当社グループの強みを活かしたサステナビリティ取組みを推進しています。



3つの注カトピックス

当社グループ会社と
連動した
気候変動対応

人的資本経営の
さらなる推進

5つの重点課題の
見直しと社内外への
情報発信の強化

2023年度の取組目標

- **セブン&アイグループとの情報連携・取組連携の推進：**
当社の取組みと連動したグループシナジーの追求
 - **セブン銀行グループとしての取組みの推進：**
サステナビリティ推進の範囲を主要国内グループ会社に拡大
 - **サステナビリティ関連情報開示の強化：**
ESG情報開示の拡充と社内外サステナビリティ情報発信の強化
 - **セブン銀行グループでのサステナビリティ意識醸成：**
グループ社員参加型の取組みの推進
- ➡ 多様なステークホルダーとの対話を促進し、
事業戦略面だけでなく、企業経営面でも評価される企業へ

2023年度の取組み

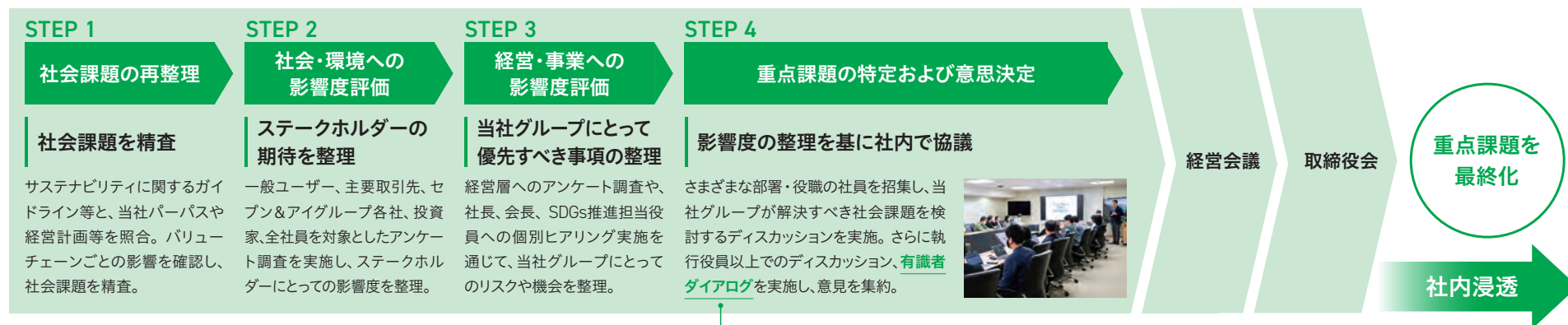
テーマ別	具体的な推進取組み
当社グループと連動した気候変動対応	● サプライチェーン一体での協業取組としてATM/パートナーサステナビリティ会議を発足 → 詳細 P57-60
人的資本経営のさらなる推進	● パーパス実現に向けた採用／育成、組織風土醸成施策を実施 → 詳細 P45-52 ● サステナビリティ委員会の分科会としてD&I推進部会を設立し、国内グループ会社一体で活動 → 詳細 P51
5つの重点課題の見直しと社内外の情報発信強化	● さまざまな環境変化を踏まえたマテリアリティ分析を再実施し、2024年7月にこれまで掲げた5つの重点課題を刷新 → 詳細 P27-28

主なCSR活動

環境活動の推進	● 環境に関する社内研修の実施（eラーニング） ● 高尾の森自然学校での自然保護活動 ● 社員によるフードドライブおよびコンタクトレンズケース回収活動の実施
CSR活動の推進 → 詳細 P81-82	● 無料配布絵本「森の戦士ボノロン」への協賛 ● ニッポン放送「ラジオ・チャリティ・ミュージックソン」への寄付および募金の実施（セブン銀行チャリティ・キャンペーン） ● ボノロンキャッシュカード1枚の発行につき当社が100円を拠出し、全国2,692館の児童館へのボノロン絵本を贈呈 ● 海外送金口座解約に伴う募金を基に、児童館200館の児童館におもちゃを贈呈（World Toy Project） ● 小学生向け金融教育プログラムの提供

5つの重点課題（マテリアリティ）

セブン銀行グループは持続的成長の実現に向けて、2019年に5つの重点課題（マテリアリティ）を策定しました。その後の5年間で、リテール金融事業や海外事業の拡大など、当社グループの事業ポートフォリオは大きく変わり、外部環境も変化しました。こうした変化に対応するため、重点課題の妥当性について再検証し、新たな5つの重点課題を策定しました。現在はKPI・目標の策定を進めています。



有識者ダイアログ



金融の専門家
永野 護 氏
成蹊大学 経済学部 教授
アジア太平洋研究センター 所長

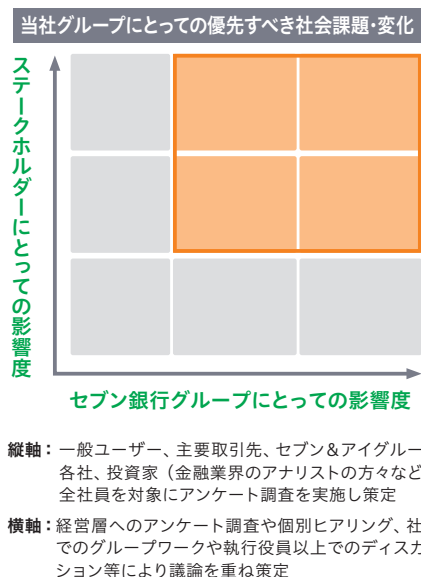


人事の専門家
バク・スックチャ 氏
株式会社アパシヨナータ
代表取締役



ESG投資の専門家
村上 由美子 氏
MPOWER Partners Fund
ゼネラルパートナー

ステークホルダーの期待を取り入れるため、有識者ダイアログを実施。各専門家との意見交換は、新たな視点や気づきの場となりました。当社からは、社長、会長、SDGs推進担当役員が参加いたしました。

新たな5つの重点課題	解決すべき社会課題
いつでも安心・安全に使える社会インフラを提供する	- 情報セキュリティおよびリスクマネジメント強化 - 社会の安心・安全に貢献する商品サービスの開発、提供 - 商品、サービスの品質と安全性の向上 - 災害時の安心・安全の提供
誰でもどこでもアクセスできる多様なサービスを実現する	- 地域社会発展への貢献 - 金融アクセスへの不の解消 - 多様なお客さまにとっての商品、サービスの利便性追求 - 訪日外国人への金融サービス提供 - 海外市場での金融ニーズ把握
お客さまの期待を超えたユニークな価値を創る	- デジタル技術によるビジネスモデルの変革 - 生活スタイルの変容により多様化するニーズへの対応
誰もが活躍できる社会づくりを進める	- 多様な人々が活躍できる職場づくり - 人権の尊重、差別やハラスメントの防止 - 社員がやりがいを持ち能力を発揮できる職場づくり - 社員のウェルビーイング向上
豊かな社会と地球の未来に貢献する	- CO2排出量の削減 - 循環型ビジネスモデルへの転換 - コーポレートガバナンスの強化 - パートナーシップの拡大 - 子どもへの金融教育

セブン銀行グループの5つの重点課題（マテリアリティ）



カテゴリー	重点課題	取り組むべき社会課題	目指すべき姿
根源的価値 	いつでも安心・安全に使える 社会インフラを提供する	金融を取り巻く環境は大きく変化し、デジタル決済が拡大する一方で、高度化・巧妙化が進む金融犯罪やサイバー攻撃の増加など、安心・安全な決済インフラの提供は重要課題の一つ。また、自然災害による被害が甚大化する中、安心・安全な生活基盤の確立や支援が必要とされる。	平時・有事にかかわらず、万全なセキュリティ体制と、緊急時でも稼働休止を最小限に留める態勢を構築し、日常の暮らしの中で、いつでもご利用いただけるATMサービスを提供し、社会に安心・安全を与える社会インフラとなる。
社会的価値 	誰でもどこでもアクセスできる 多様なサービスを実現する	地域格差やデジタルデバインド（情報格差）など、格差による課題解決に対応するために、その代替となる社会・情報インフラの構築が不可欠。官民の連携強化による社会全体でのDX推進があらゆる世代・地域を超えて必要なサービスを享受できる世界の実現につながる。	「社会で最もやさしいデジタルチャネル」を目指し、世界5か国で5万台を超えるATMネットワークを通じて、いつでもどこでも誰もがアクセスできる社会インフラを確立し、必要とされる多様なサービスを提供する。
新たな価値創造 	お客さまの期待を超えた ユニークな価値を創る	デジタル技術の進化や生活スタイルの変化により、お客さまの価値観やニーズは多様化している。個々のお客さまニーズに合致した利便性の高い金融サービスの提供に加えて、新しい顧客体験の提供を通じてお客さまとの関係性を築くことも求められている。	「近くて便利」「安心・安全」をベースに、従来の金融サービスの概念にとらわれない「小売×金融」の新たなサービスの発展を通じて、日々の暮らしの中で、お客さまとつながる新たな価値を創造する。
価値創造の源泉 	誰もが活躍できる 社会づくりを進める	これからは多様性を強みに活かす時代。経営においては多様な人財・多様な働き方に適した就労環境の整備や一人ひとりのキャリア開発とスキルアップが企業競争力強化のカギとなる。社会においては、国境・性別・宗教の違いを超えて、異なる文化や価値観を尊重し、協働することで、課題解決とさらなる発展につながる。	セブン銀行グループ全体として、人権と多様性を尊重し、誰もが生き甲斐・働き甲斐を実感できる企業を目指し取り組む。さらに事業パートナーや提携先企業にも広げることで、多様性が活きる社会の実現につなげる。
将来への価値創造 	豊かな社会と地球の未来に 貢献する	気候変動による気象災害や自然資本の損失など地球環境問題への対応は企業経営における喫緊の課題。また、金融機関としては、次世代に向けて、金融犯罪や詐欺の防止に加えて、電子決済やデジタル通貨など、新たな金融リテラシーの社会浸透も必要性を増す。	将来世代に向けて地球と社会の未来を引き継ぐために、企業市民として、金融機関として、セブン&アイグループの一員として、企業も社会も地球も持続可能であるためのさまざまな課題解決に取り組む。